

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 12 日現在

機関番号：14301

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2014

課題番号：25590001

研究課題名(和文)震災復興政策における分配的正義

研究課題名(英文)Distributive Justice Concerning Post-Disaster Reconstruction Policy

研究代表者

宇佐美 誠 (USAMI, Makoto)

京都大学・地球環境学堂・教授

研究者番号：80232809

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、分配的正義論の国際学界における有力理論である運の平等主義や優先主義・十分主義を震災復興政策上の分配問題にそくして検討することにより、各理論の射程を論定し、その修正・改良を提案することを目的としている。研究活動の推進の結果、運の平等主義および十分主義の主要形態は種々の限界をもつが、両者を各々改善した上で結合する方向性は有望であることが明らかとなった。研究活動の主要な成果物として、運の平等主義と十分主義に関する国際会議報告および英語論文や、運の平等主義を精査した国際会議報告および論文などが挙げられる。

研究成果の概要(英文)：This research project is intended to examine and develop luck egalitarianism and primary theories on distributive goals, including prioritarianism and sufficientarianism, in the context of post-disaster reconstruction policy. Our research revealed that major versions of luck egalitarianism have several limitations. However, it is promising to combine a refined version of luck egalitarianism with a new form of sufficientarianism.

研究分野：社会科学

キーワード：法哲学 政治哲学 政策学 正義論 震災復興

#### 1. 研究開始当初の背景

法哲学の正義論や政治哲学の国際学界では、分配的正義研究は平等理念を焦点として発展してきた。第1に、選択/環境の区別に基づいて、個人が左右しえない不運への補償を主張する運の平等主義が抬頭し、広範な支持をえる一方で、様々な批判も招き、論争が続いている。第2に、格差の最小化としての平等、より不利な個人の利益をより重視する優先性、万人への閾値までの保障のみを主張する十分性という3つの分配理念について、各理念の分析と三つ巴の論争とが行われている。両論点はともに、平常時を前提した上で、人間生活の特定面を他から切断し、思考実験により抽象的に考察されてきた。

研究代表者は、東日本大震災の発生以来、この未曾有の事態に法哲学専攻者としていかに貢献しうるかを思索してきた。その過程で、震災復興という巨大な実践的課題への法哲学的一応答の試みとして、この現実問題の文脈において運の平等主義を検討するとともに、優先主義・十分主義を考察する本研究を着想するにいたった。

#### 2. 研究の目的

本研究課題は、大規模災害という非常事態を出発点として、居住基盤の崩壊や家族・共同体の紐帯の切断が同時に発生した生活環境の全面的危機状況における財・貨幣の分配問題という文脈のなかで、法哲学・政治哲学の先端的な諸理論を検討することを目的としている。具体的には、地震・津波・原発事故の被災地の状況や復興政策の過程を参照しつつ、第1に、運の平等主義がどこまで説得力をもつか、また説得力が乏しいならばいかなる修正・改良が必要かを検討し、また第2に、分配理念をめぐる有力理論である優先主義・十分主義がそれぞれいかなる長短をもち、それらをいかに発展させうるかを探究する。

#### 3. 研究の方法

研究目的を効果的に達成するため、2つの班を設けて、班単位で運の平等主義と分配理念というサブ・テーマに特化した研究活動を遂行すると同時に、それと並行して全体会合を重ね、各班の成果の共有・統合化を推進した。平成25年度には、各班において、一方では法哲学的・政治学的な研究蓄積の整理から始め、最先端の研究状況の把握へと進み、他方では東日本大震災の被災地の経緯・現状や復興政策の実態と展望についても論点整理を行った。続いて、復興政策を含む復興過程の文脈における分配的正義論上の法哲学的・政治的哲学的論点を抽出した。平成26年度には、研究代表者および各研究分担者がそれぞれ理論構築に着手し、共同討議を通じて理論を発展させ、国内外の会議や学術誌等で成果を発表した。

#### 4. 研究成果

本研究課題の主要な成果物として、運の平等主義および十分主義の既存の形態は復興政策の文脈では種々の限界をもつことを示し、両者を各々改善した上で結合することを提唱した宇佐美の国際会議報告および英語論文や、災害後の文脈において運の平等主義を多角的に精査した井上の国際会議報告および論文が挙げられる。他の成果物および密接に関連する成果物には、須賀による制度・認識・社会正義に関する経済学的分析、那須によるグローバル化下での法概念変容の検討、永松による東日本大震災の被災地での雇用創出策の考察などが含まれる。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計18件)

Kosuke Nasu, "Doubting Doubts, Rescuing Beliefs: Brian Z. Tamanaha and Reflections on Philosophy of Law," *ARSP (Archiv für Rechts- und Sozialphilosophie) Beiheft*, forthcoming. (査読無)

宇佐美誠「国際法におけるグローバルな正義」世界法年報、34号、5-33頁、2015年。(査読無)

Makoto Usami, "Justice after Catastrophe: Responsibility and Security," *Ritsumeikan Studies in Language and Culture*, Vol. 26, No. 4, pp. 215-230, 2015. (査読無)

Kosuke Nasu, "Does the Concept of Law Need to Be Revised in the Face of Globalization?" *Japanese Yearbook of International Law*, Vol. 57, pp. 228-242, 2015. (査読有)

井上彰「運の平等論とカタストロフィ」立命館言語文化研究、第26巻4号、231-247頁、2015年。(査読無)

須賀晃一「「社会を選択する」とは」経済セミナー、677号、65-69頁、2014年。(査読無)

那須耕介「サヴァイヴィング・ファミリーズ」法律時報、86巻3号(通巻1070号)、76-80頁、2014年。(査読無)

那須耕介「グローバル化は法概念の改訂を求めているか？」社会科学研究、65巻2号、113-128頁、2014年。(査読有)

永松伸吾・櫻原正澄・三谷真・菅磨志保「東日本大震災におけるしごとの復興」社会安全学研究、No. 4、3-13頁、2014

年。(査読有)

Shingo Nagamatsu, "Are Cash for Work (CFW) Programs Effective to Promote Disaster Recovery? Evidence from the Case of Fukushima Prefecture," *Journal of Disaster Research*, Vol. 9, No. 2, pp. 161-175, 2014. (査読有)

永松伸吾・元吉忠寛・金子信也・岡田夏美「被災者による被災者支援業務の評価と課題 多賀城市仮設住宅支援業務を例として」地域安全学会論文集、No. 24、183-190 頁、2014 年。(査読有)

永松伸吾「被災地における緊急雇用創出事業はどのような被災者を雇用したのか 大槌町・釜石市・大船渡市における仮設住宅支援員事業を例として」日本災害復興学会 2014 長岡大会講演論文集、104-105 頁、2014 年。(査読無)

井上彰「多元主義的リバタリアニズムの哲学的正当化? 森村進『リバタリアンはこう考える』」思想、第 1079 号、64-71 頁、2014 年。(査読無)

井上彰「分析的政治哲学とロールズ『正義論』」政治思想研究、14 号、6-32 頁、2014 年。(査読有)

宇佐美誠「気候の正義—政策の背後にある価値理論」公共政策研究、13 号、7-19 頁、2013 年。(査読有)

宇佐美誠「グローバルな経済的正義」法哲学年報 2012、9-26 頁、2013 年。(査読有)

宇佐美誠「移行期正義—解明・評価・展望」国際政治、171 号、43-57 頁、2013 年。(査読有)

Akira Inoue, "Is Moderate Essentialism Truly Moderate?" *Public Health Ethics*, Vol. 6, No. 1, pp. 21-27, 2013. (査読有)  
DOI:10.1093/phe/pht001

[学会発表](計 30 件)

宇佐美誠「世代間正義の分配理念」連続シンポジウム「持続可能社会」法学の樹立を展望して」第 3 回「持続可能性と世代間正義」、早稲田大学(東京都新宿区) 2015 年 2 月 23 日。(招待講演)

Akira Inoue, "On Institutional Luck Egalitarianism," 12th Asia Pacific Conference, Ritsumeikan Asia Pacific University, Beppu, Oita, November 1, 2014. (招待講演)

永松伸吾「被災地における緊急雇用創出事業はどのような被災者を雇用したのか 大槌町・釜石市・大船渡市における仮設住宅支援員事業を例として」日本災害復興学会、アオーレ長岡(新潟県長岡市) 2014 年 10 月 24 日。

丸井和彦・永松伸吾「福島第一原発事故における精神的損害に係る賠償金についての研究」日本災害復興学会、アオーレ長岡(新潟県長岡市) 2014 年 10 月 24 日。

Shingo Nagamatsu, "The Provision of Care for Disaster Survivors by the Cash for Work (CFW) Program: Evaluation and Lessons from the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami Disasters in Tagajo City," The 3rd International Conference of Urban Disaster Reduction (3ICUDR), Boulderado Hotel, Boulder, U.S.A., September 30, 2014.

Makoto Usami, "Climate Justice: Equality or Sufficiency," 2nd International Conference on Sustainable Development, Roma Eventi, Rome, Italy, September 26, 2014.

宇佐美誠「公正の教え方」法と教育学会第 5 回学術大会、筑波大学(茨城県つくば市) 2014 年 9 月 7 日。(招待講演)

Shingo Nagamatsu, "Are Cash for Work (CFW) Programs Effective to Promote Disaster Recovery? Evidence from the Case of Fukushima Prefecture," International Disaster Risk Conference (IDRC2014), Davos Conference Centre, Davos, Switzerland, August 26, 2014.

Shingo Nagamatsu, "Japanese Economic Scenarios after Tokyo Inland Earthquake: An Expert Questionnaire Survey to Leading Japanese Economic Forecasters," International Disaster Risk Conference (IDRC2014), Davos Conference Centre, Davos, Switzerland, August 25, 2014.

Makoto Usami, "Human Rights: Philosophical Not Practical," 9th East Asian Conference on Philosophy of Law, Hankuk University of Foreign Studies, Seoul, Korea, August 21, 2014.

Akira Inoue, "On Parfitian Prioritarianism and the Separateness of Persons," 13th Conference of Internation-

al Society for Utilitarian Studies, Yokohama National University, Yokohama, Kanagawa, August 21, 2014.

宇佐美誠「若者に公正な社会」第8回基礎法学総合シンポジウム「若者と法」日本学術会議（東京都港区）2014年7月5日。（招待講演）

Makoto Usami, "Responsibility for Structural Injustice: A Critical Examination," Association for Legal and Social Philosophy Annual Conference, University of Leeds, Leeds, England, July 2, 2014.

宇佐美誠「国際法におけるグローバルな正義」世界法学会2014年度研究大会、東北大学（宮城県仙台市）2014年5月17日。（招待講演）

Akira Inoue, "Rawlsian Contractualism and the Cognitively Disabled," International Conference: Social Contract Theory. Past, Present, and Future, University of Lisbon, Lisbon, Portugal, May 17, 2014.

Akira Inoue, "Luck Egalitarianism and Catastrophe," International Conference, "Social Justice and Catastrophe: Risk, Responsibility and Reciprocity," Ritsumeikan University, Kyoto, Kyoto, March 20, 2014.

Makoto Usami, "Justice after Catastrophe: Responsibility, Security, and Solidarity," presentation made at International Conference, "Social Justice and Catastrophe: Risk, Responsibility and Reciprocity," Ritsumeikan University, Kyoto, Kyoto, March 19, 2014.

須賀晃一「経済学と社会的正義」ワークショップ「制度、認識、社会正義、そしてゲーム理論」早稲田大学（東京都新宿区）2014年3月15日。

須賀晃一「カント的行動原理の可能性 社会選択論の立場から」政治経済学会、早稲田大学（東京都新宿区）2014年3月3日。

井上彰「平等 その基礎をめぐる考察」一橋大学経済研究所・共同利用・共同研究拠点「厚生経済学と政治哲学」研究会、一橋大学（東京都国立市）2014年1月10日。（招待講演）

- ⑳ 那須耕介「グローバル化は法理論の書き換えを必要としているか？」日本法哲学会2013年度学術大会、駒沢大学（東京都世田谷区）2013年11月16日。

㉑ Makoto Usami, "The Paradox of Democratic Penal Policy," What Is Justice? Re-imagining Penal Policy, University of Oxford, Oxford, England, October 1, 2013.

㉒ Makoto Usami, "Sustainability Science: The Challenge of Comprehensive Discipline Integration," keynote lecture delivered at UNU/IR3S/UNESCO Joint Symposium, "Sustainability Science: Promoting Integration and Cooperation," United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization (UNESCO) Headquarters, Paris, France, September 19, 2013.

㉓ Akira Inoue, "Taming Luck Egalitarianism Successfully?" Justice, Taxation, and Social Philosophy Conference, Salzburg University, Salzburg, Austria, August 24, 2013.

㉔ 宇佐美誠「気候の正義：政策分析はなぜ価値分析を必要とするか」日本公共政策学会関西支部第6回大会、龍谷大学（京都府京都市）2013年7月27日。（招待講演）

㉕ Kosuke Nasu, "(How Much and Why) Does Global Society Requires Revision of the Theory of Law?" IVR (Internationale Vereinigung für Rechts- und Sozialphilosophie) World Congress 2013, Universidade Federal de Minas Gerais, Belo Horizonte, Brazil, July 22, 2013.

㉖ Tetsuya Torayashiki and Shingo Nagamatsu, "Emergency Employment after the Great East Japan Earthquake: A Region-Wide Analysis," 38th Annual Natural Hazards Workshop, Omuni Interlocken Resort, Boulder, U.S.A., July 14, 2013.

㉗ Shingo Nagamatsu, "Do Cash for Work (CFW) Programs Promote Disaster Recovery? Lessons from the CFW Program Following the 2011 Disaster at Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant," 38th Annual Natural Hazards Workshop, Omuni Interlocken Resort, Boulder, U.S.A., July 14, 2013.

㉘ 那須耕介「サヴァイヴィング・ファミリーズ」基礎法学学会連合、日本学術会議（東京都港区）2013年7月6日。

㉙ 井上彰「分析的政治哲学とロールズ『正義論』」第20回政治思想学会研究大会、慶應義塾大学（東京都港区）2013年5

月 25 日。(招待講演)

〔図書〕(計 16 件)

Makoto Usami (Yukio Adachi, Sukehiro Hosono and Jun Iio eds.), *Policy Analysis in Japan*, Policy Press, pp. 354 (pp. 73-87), 2015.

宇佐美誠(編)『グローバルな正義』勁草書房、230 頁(i-vi 頁、3-26 頁) 2014 年。

瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕『法哲学』有斐閣、416 頁(123-176 頁、191-223 頁、232-263 頁、368-383 頁) 2014 年。

Tetsu Sakurai and Makoto Usami (eds.), *Human Rights and Global Justice: The 10th Kobe Lectures, July 2011 (Archiv für Rechts- und Sozialphilosophie, Beiheft 139)*, Stuttgart: Franz Steiner Verlag, pp. 167 (pp. 9-13), 2014.

須賀晃一(井上彰・田村哲樹編)『政治理論とは何か』風行社、318 頁(1-45 頁) 2014 年。

須賀晃一編『公共経済学講義：理論から政策へ』有斐閣、411 頁(2-27 頁、54-86 頁、142-175 頁、366-399 頁) 2014 年。

永松伸吾・元吉忠寛・金子信也『リスク管理のための社会安全学』ミネルヴァ書房、288 頁(191-209 頁) 2014 年。

井上彰(齋藤純一編)『理性の両義性(岩波講座 政治哲学 第5巻)』岩波書店、240 頁(151-172 頁) 2014 年。

Akira Inoue (Akira Akabayashi ed.), *Future of Bioethics: International Dialogues*, Oxford University Press, pp. 816 (pp. 579-585), 2014.

井上彰(井上達夫編)『立法学の哲学的再編 立法学のフロンティア 第I巻』ナカニシヤ出版、328 頁(169-191 頁) 2014 年。

井上彰・田村哲樹(編)『政治理論とは何か』風行社、318 頁(15-45 頁) 2014 年。

井上彰(橋本努編)『現代の経済思想』勁草書房、623 頁(173-201 頁) 2014 年。

竹下賢・宇佐美誠(編)『法思想史の新たな水脈 私法の源流へ』昭和堂、272

頁(i-iii 頁、156-186 頁) 2013 年。

須賀晃一(船木由喜彦・石川竜一郎編)『制度と認識の経済学』NTT 出版、332 頁(21-56 頁) 2013 年。

須賀晃一(船木由喜彦・武藤滋夫・中山幹夫編)『ゲーム理論 アプリケーションブック』東洋経済新報社、266 頁(69-93 頁) 2013 年。

永松伸吾(関西大学社会安全学部編)『防災・減災のための社会安全学』ミネルヴァ書房、250 頁(196-212 頁) 2013 年。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

宇佐美 誠 (USAMI, Makoto)  
京都大学・地球環境学堂・教授  
研究者番号：80232809

### (2) 研究分担者

須賀 晃一 (SUGA, Koichi)  
早稲田大学・政治経済学術院・教授  
研究者番号：00171116

那須 耕介 (NASU, Kosuke)  
京都大学・人間・環境学研究所・准教授  
研究者番号：60330354

永松 伸吾 (NAGAMATSU, Shingo)  
関西大学・社会安全学部・准教授  
研究者番号：90335331

井上 彰 (INOUE, Akira)  
立命館大学・先端総合学術研究科・准教授  
研究者番号：80535097